



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2012～2013年度 RI会長 田中 作次
RIテーマ Peace Through Service 奉仕を通じて平和を

クラブテーマ「チ・カ・ラを出そう」会長 太田政人

副会長 山本良一 幹事 石井司人

第1113回 例会
2011.11.2(金)晴

司会:久保栄子君 指揮:小島 真君
ロータリーソング「我等の生業」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 太田政人君

本日は11月の第一例会です。せせらぎ三島RC内部規定に「現会長は次年度の役員および理事の指定を求めなければならない」とありますので皆さまいかがでしょうか？会長一任と決しましたので指名委員を委嘱し次期の役員および理事を決めています。



今月はロータリー財団月間です。山口雅弘さんのゲストスピーカーとしてチェコに留学されましたロータリー財団学友の飯島百合さんをお願いいたしました、飯島百合さんは深良中学で講師をされています。よろしくお願いいたします。

さて、皆さんは厄年をご存じと思います、男は25、42(大厄)、61歳、女は19、33(大厄)、37歳と古くからされています。また、男は8の倍数の歳、女は7の倍数の歳に体調の変わり目が訪れると最近TVのコマーシャルでいわれていますがこれは現存する中国最古の医学書2000年前に書かれた「黄帝内経」に載っていることを引用しています。これらのことを信じる人信じない人それぞれですが3人に1人が厄年を気にしているそうです。

エーバーライフ社が設立した「年齢研究所」が先ほど『新厄年』を発表しました、2011年の1年間に受診した20歳から73歳のレセプト約76万人分のうち要介護・要支援の原因となる脳血管障害、認知症、変形性膝関節症、骨粗しょう症、虚血性心疾患、糖尿病、がんの7つの疾患を対象に発症率を分析した結果、これらの疾患の発症リスクが上昇するターニングポイントが判明しその時期を『新厄歳』としました、満年齢で男は24、37、50、63歳、女は25、39、52、63歳です。特に63歳は男女とも主要疾患の発症リスクが最も急上昇する年齢で『新大厄』と呼んでもいいと注意を喚起しています。せせらぎ三島RCのメンバーにもこの年齢に該当される方もおられるようです、皆さま体調の管理を怠りなくしてください。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

飯島百合さん(R財団学友)
外川正知恵君(河口湖RC)
渡辺庸子君(大月RC)
濱田清明君(沼津柿田川RC)

出 席 報 告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	30/35	85.71%	31/35	88.57%
今回	32/36	88.89%	会員総数	36名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

内田君、望月君、米山君、渡邊君

おめでとう

会員誕生日 11月6日 田中錦城君

スマイルボックス

外川正知恵君・渡辺庸子君:本日はお世話になります。毎年続けられておられますタイへの奉仕活動、今年は河口湖RCとしては参加できませんが、大月RCの渡辺庸子さんと一緒に参加させていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

澤田 稔君:ロータリーの好意と友情で兼子パスト会長と山口辰哉さんが発起人として圓遊会に出席して名誉なことなので祝う会を催していただくことになりました。皆様お暇でしたら祝っていただければ嬉しい限りです。

岡 良森君:先週杉山順一君にいただいた割引券で八景園日帰り&マッサージやってきました。お得でした。ぜひ皆さんもご利用になってはいかがでしょうか。

片野誠一君:澤田さんおめでとうございます。お祝いの席に出席できませんがお許しください。

山本良一君:金曜日の夜が忙しく、3回続けてメイクアップをしました。これから忘年会が続きます。皆さんメイクアップをしましょう。

R財団学友 飯島百合さん



皆さま、こんにちは。裾野市から参りました、飯島です。本日は例会にお招き下さいまして、ありがとうございます。皆様とお会いするのは2回目となります。今回は、演奏をしながら、チェコの音楽について少し話したように思いますので、今回は音楽に限定せず、

チェコという国を少し皆さまに紹介できればと思っております。

皆さまの中には「チェコスロヴァキア」という国名で記憶している方も多くはないかと思いますが、今現在は、「チェコ共和国」と「スロヴァキア共和国」の2つの国に分かれております。1989年に隣のドイツでベルリンの壁が崩壊したのをきっかけに、チェコスロヴァキアも再び、抑圧解放の声が高まり、89年の11月17日、ついに解放され、独立した1国、民主主義国家となりました。その後、今度は国内で、チェコ人とスロヴァキア人の対立が深まりましたが、1993年の1月、彼らは戦うことなく、平和的に分離しまして、チェコ共和国とスロヴァキア共和国の2国の誕生となりました。この89年からの動きが、戦い無しで進んだことから、「ビロード革命」とも呼ばれています。

私が2年間滞在したプラハは、古くからの建造物が本当に大事に保管されており、「黄金の街」などとも呼ばれています。主なところを挙げてみますと、まず、プラハ城です。これはギネスブックにも記録されている世界最大のお城で、聖ヴィート大聖堂や聖イジー教会などたくさんの建物が並んでいます。聖十字架礼拝堂の奥は、現在大統領府として使われています。次にカレル橋です。これはモルダウ川(ヴルタヴァ川)にかかる大きな橋で、両側に30体の聖人像が並んでいます。この像の中には、日本史の教科書に出てくる、フランシスコ・ザヴィエルの像もあります。次はマラー・ストラナ地区にある聖ミクラーシュ教会です。この教会のオルガンを、モーツァルトが演奏したそうです。

さて、チェコという国はたいへん小さな国ではありますが、いろんな分野から多くの素晴らしい人を世の中に送り出しています。スポーツ選手ですと、少し昔になりますが、東京オリンピックで金メダルを取りました、体操のチャスラフスカ、アイスホッケーのドミニク・ハシェック、テニスのナヴラチロヴァ、最近では、クルム伊達公子選手とも対戦しているクヴィドヴァなど、名前をご存じの方もいらっしゃるのではないかと思います。サッカーも強く、FIFAのランキングでは4連続2位を記録しています。作家では、カフカ、チャペックが挙げられます。このチャペックは「ロボット」という単語を作り出しました。その他、画家のミュシャ、「メンデルの法則」を生み出したメンデルも実はチェコ出身です。また、広島原爆ドームを造ったのもチェコ人です。

そして、音楽の分野では、まず挙げられるのが「モルダウ(ヴルタヴァ)」を作曲したスメタナでしょう。そしてもう一人忘れてはならないのが、交響曲第9番「新世界から」を作曲したドヴォルジャークです。しかし、この2人以外にもとても有名な作曲家がチェコ出身であり、チェコの血をひいています。その一人が交響曲第1番「巨人」などを作ったグスタフ・マーラーです。彼も、プラハに近い小さな町に生まれ、育ちました。そしてチェコ、モラヴィアの血をひいた作曲家がシューベルトです。彼はウィーンで育ちましたが、彼の両親はモラヴィア地方出身でした。また、ヨーロッパのちょうど真ん中にチェコ

が位置していることもあって、ベートーヴェンやモーツァルトなど多くの音楽家がチェコ、特にプラハを歩き来していたようです。少し話がそれますが、実はモーツァルトは、プラハととても縁が深く、ある時をきっかけに、何度もプラハを訪れるようになりまして、長く滞在して、作曲活動もしていたようです。モーツァルトは、有名なオペラ「フィガロの結婚」を、はじめウィーンで初演したのですが、評価はいまひとつで、がっかりしていました。その後、プラハでも上演されて、これが大絶賛になり、「自分を認めてくれたのだ！」とプラハを大好きになったそうです。それから、度々訪れるようになり、有名なオペラ「ドン・ジョヴァンニ」はプラハの劇場で初演し、交響曲38番も、「プラハ」と名付けて、プラハの人々に贈りました。また、この「ドン・ジョヴァンニ」は作曲もプラハの中のベルトラムカというところで作曲されましたが、あのベートーヴェンがそこを訪れて、2人は対面した、とも言われています。このようにモーツァルトは、本当にプラハの人々と親しくなったこともあり、彼が亡くなったときには、聖ミクラーシュ教会で、追悼ミサが行われ、教会に入りきれないほどのたくさんの人が集まったとも言われています。

今回は、チェコのほんの一部しか紹介できませんでしたが、今は日本の企業もかなりチェコに進出しています(トヨタ、住友グループ、パナソニックなど)。また、プラハと京都は姉妹都市となっておりますので、日本とチェコは交流が深く、かなり親しい関係であると言えるのではないのでしょうか。皆さまに、これを機に少しでもチェコに興味を持っていただけたらうれしく思います。



今日の料理